

ISO内部監査 / 審査関連の用語解説

内部監査

内部監査は別名、第一者監査ともいわれ、組織自身の保有するシステムを自ら評価するために行う監査。内部監査の目的は、自社のマネジメントシステムで決めたことが実行され、効果的であることを経営者に示すこと。内部監査は組織の品質マネジメントシステムを構築し、維持していく上で重要であり、認証登録機関の

内部監査員

内部監査を実施するには、力量を持った内部監査員が必要である。力量にはマネジメントシステムに関する知識、経験、技術などがある。ISO規格では“監査員は自らの仕事は監査しないこと”と規定されている。直接の作業者と責任者は、当

内部監査計画

内部監査を行う実行計画のこと。計画には監査の目的、範囲、監査期日、基準文書、監査チームメンバー、

内部監査チーム

内部監査では、監査チームリーダーが指名されることが多い。チームリーダーは監査範囲、基準を明確に示す。内部監査チームには内部監査員養成のOJT教育として、訓練中の監査員（補助員）を含めることがある。

監査プログラム

内部監査はあらかじめ定められた間隔で実施する。監査プログラムは、年度計画を策定し、基準文書は作

監査プロセス

監査の実施は、チームリーダーを指名して開始される。チームリーダーは監査範囲、監査基準を監査依頼者に説明する。実地監査は、監査計画に従って進める。監査は監査基準が満たされているか、証拠を集め、評価し、監査所長に報告する。実地監査終了後、チームリーダーは監査報告書を作成し、確認後配付する。監査時に指摘された不適合は

客観的証拠

ISO9000の用語の定義によれば、「あるものの存在や真実を裏付けるデータ」とされている。製品が要求

指摘事項

審査登録制度における登録（初回）審査と、その後の定期（継続・維持）審査、更新審査で審査員から指摘された内容により、システム要求事項が欠落している「重大」なもの、実行が部分的に抜け落ちがある「軽微」なもの、および「軽微」の指摘事項の場合、是正処置を必修としている。

フォローアップ

是正処置の実施後に、その処置の有効性の検証を行うことをフォローアップという。内部監査において

サーベイランスと更新審査

認証登録機関が登録した企業（組織）のマネジメントシステムが引き続き維持されていることを、定期登録は通常3年間の有効期限がある。引き続き登録を希望する企業は、登録継続の可否を審査される。こ

内部監査員研修関連ページ

- [内部監査員研修](#)
- [ISO内部監査 / 審査関連の用語解説](#)
- [内部監査チェックリストの例](#)
- [内部監査員の有効活用](#)

お問い合わせはタテックス有限会社まで